

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

令和2年2月17日開催の「3年目中間評価会」での発表内容および配布資料、九州がんプロホームページ (<http://www.k-ganpro.com/>) 等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	南 博信
-----------	------

1. 3年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	B
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	B
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	B
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	B

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>1. それぞれの大学の特徴を活かして全体として協力しながら活動できている。あと2年間の伸びしろを考慮してB評価としたが、一般的にactiveに活動をしている。以前は大学間でactivityの差が大きかったが、長崎大学と鹿児島大学に臨床腫瘍に特化した講座が新設されてから両大学では大学院生も確保できており、講座新設の効果があったと考えられる。ただ、大学の規模に大きな差があるためactivityにある程度の差があるのは仕方ないが、3年間の学生がいないコースもあるなど依然と大学間での差が目立つ。将来開業する学生が多い私立大学ではがん領域の学生確保が困難であるのは理解できるが、福岡大学は婦人科ベースの学生を確保するなど工夫している。学生が少ない他の大学も大学の特徴を活かして学生を確保する努力をして欲しい。</p> <p>2. ゲノム医療に関しては医師のコースが充実し学生も確保できているが、医療現場ではゲノム医療や遺伝カウンセリングに対応できる看護師のニーズが高い。このグループに限ったことではないが、ゲノム医療に詳しい看護師の教育にも力を入れて欲しい。</p> <p>3. 離島や僻地をかかえる長崎県では当該地区での実習を組み込むなどした結果、当該地区で活躍している卒業生も現れているとのこと。今後そのような卒業生が増えれば、地域でのがん医療の向上が期待できる。</p> <p>4. 旧がんプロからの移行者も含めてがん薬物療法専門医や放射線治療専門医を取得した卒業生がいない。これらの資格取得を促すべきである。</p> <p>5. グループ全体として希少がん・小児がんコースの学生が少ない。</p> <p>6. なお今期より産業医大ががんプロの活動から離脱したが、中間評価会にはオブザーバーとして参加していた。現在の日本ではがん患者の就労支援が問題となっているが、産業医側の理解が重要である。がんを直接診療する医師は育成しなくても、産業医としてがんと向き合う医師を育成するなど産業医大ががん医療に貢献できる役割も大きい。ぜひ、このグループの中で特徴を活かした活動をしていただきたい。</p>

2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	ゲノムの医師向けコースや医学物理士のコースに多くの学生を確保できている。小児がんの勉強会にも成人診療科医師が参加できているなど、小児がん拠点病院・がんゲノム医療中核拠点病院の利点を活かした活動をしている。
福岡大学	将来開業する医師が多い私立大学ではあるが、がん診療の比重が大きい婦人科医を大学院生として入学させるなど、大学の特徴を活かした工夫が評価できる。病診連携体制を構築するなどそれぞれの医療機関の特徴を活かした地域医療を展開している。これを大学院生のさらなる増加につなげることを期待したい。
久留米大学	医師のコースに学生がいない。希少がん・小児がんに特化するのではなく、がん診療そのものに力を入れる必要があると思われる。希少がん・小児がんに特化した人材育成を目指すのであれば、そのための体制を構築することが望まれる。
佐賀大学	医師の大学院生を確保している。がん薬物療法専門医の資格が取得できる研修体制を整えたとのことなので、今後の活動に期待したい。
長崎大学	腫瘍学の講座を新設し、ゲノム・ライフステージとも医師大学院生を確保できている。1名ではあるが歯科医師の大学院生も確保している。歯科医としてがん治療の支持療法に貢献する役割は大きいと、さらなる人材育成を期待したい。離島・僻地実習を実施した結果、卒業後に離島で活躍している医師が出ているとのこと、成果として評価できる。
熊本大学	研修医・大学院一体型でがん専門医を養成するコースを新設するなど工夫している。本年は諸事情で入学者がいないようであるが、コンスタントに学生を確保できている点は評価できる。腫瘍内科医、放射線腫瘍医の育成体制の構築も求められる。
大分大学	大学の規模の割には医師の大学院生を3年間で17名と最も多く、しかも目標を越えて確保している。ノウハウを他の大学と共有できると良いと思われる。
宮崎大学	インテンシブコースをactiveに実施し参加者も多いが、大学院生が医師・看護師とも入学していないので、その確保に努力していただきたい。
鹿児島大学	ゲノムとライフステージの二つの医師コースを設け、そのどちらにも大学院生を確保できている。講座新設の効果があったものと思われる。地域卒の学生も大学院に入学しているとのこと、評価できる。その体制・ノウハウなどを全国に発信して欲しい。
琉球大学	希少がんバイオインフォメーションバンクで研究体制を構築し、医師の大学院生を確保している。さらなる入学数増を期待したい。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

令和2年2月17日開催の「3年目中間評価会」での発表内容および配布資料、九州がんプロホームページ (<http://www.k-ganpro.com/>) 等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	千堂 年昭
-----------	-------

1. 3年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	a
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>広範なエリアにわたる九州地区において目標達成のために、拠点内の3つのエリア（北部、西部、南部）にそれぞれ幹事施設（九州大学、長崎大学、鹿児島大学）が中心となり、エリアごとで連携して展開していることが伺えます。全体的に、10大学とも社会課題や人材需要を踏まえた特色ある教育プログラム、教育の方策のもと取り組まれています。特筆する点として、教育コンテンツの共有化のためのe-ラーニングの充実が評価できます。「eラーニング支援室」がうまく機能しているものと思われます。あわせて、多職種連携教育に参加型教育を取り入れ、成果が見られています。一方で、大学院生の継続的な確保が課題として挙げられます。来年度に向けて、がんプロコース以外の一般コースでもe-ラーニングコースの受講を可能にしてがん領域に興味を持たせる等の工夫が求められます。</p> <p>達成目標1 がん医療の新たな新ニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムが整備されていることが伺えます。積極的に、eラーニング、テレビ会議システムの有効活用により教育コンテンツの共有化がほぼ達成されています。長崎大学と鹿児島大学の継続的事業である「僻地・離島医療専門医療人養成コース」は本養成プランの特徴であり、一定の受講者を確保しています。</p> <p>達成目標2 ライフステージ領域に関する教育プログラムの構築が順調に進捗されています。今後の事業推進の準備はほぼ達成できていると思われます。各拠点で多職種が集える参加型講習会は有意義であるため、引き続き定期的な開催をお願いします。</p> <p>達成目標3 ゲノム医療や小児・希少がんに対する事業は各大学とも積極的に推進されています。関心の高い領域であるため、医療従事者向けおよび市民向けの広報活動を積極的に進めていただくことを期待します。</p> <p>全体的に取り組むには順調に進捗しております。今後に向けて、各取り組みの検証によるフィードバックをもとに必要な応じた改善を進めて欲しいと思います。九州内の多様な新ニーズに対応する多くのがん専門医療人が養成されることを期待します。</p>

2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	がんゲノム医療、小児・希少がんに関する教育プログラムが充実しています。特にがんゲノム医療講習会は質的・量的にも充実しています。引き続き、九州全体の連携活動を意識した事業計画が期待します。さらに広報活動による新コースへの大学院生の受け入れ数増加が望まれます。
福岡大学	多職種での人材育成プログラムは充実しています。将来を担える人材育成のために、広報活動等を通して、大学院生の確保に努めて欲しい。
久留米大学	大学の特徴を活かした教育プログラムが実践されています。全体を統括するマネジメント部門の設置と北部エリア内での医療機関との連携が望まれます。
佐賀大学	達成目標ごとに、特色ある取り組みが実施されています。引き続き大学の特性に応じた事業を推進して欲しいと思います。今後は地域がん診療拠点病院との連携強化が重要と思われる。
長崎大学	がんプロ全国e-ラーニングクラウドを活用した取り組みが進んでいます。大学院生の受け入れも目標達成していることは評価できます。離島・僻地実習や在宅医療実習の教育プログラムは特徴的であり継続化を望みます。薬学部との連携により薬剤師コースの充実化を期待します。
熊本大学	多くのコース生が専門医資格を取得しており、今後、研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースの設置による大学院生数の増加が期待できます。
大分大学	ゲノム医療におけるエキスパートパネルでの各職種のリーダー養成が順調に進んでいます。多様なニーズに貢献できるがん看護専門看護師コースのさらなる充実に期待します。
宮崎大学	がん看護専門看護師コースにおける講演会の参加者が多く、多職種にわたっていることは評価できます。今後も引き続き、がん看護専門看護師の養成を基盤にして多職種人材養成の推進を期待します。
鹿児島大学	がんゲノム医療に関する教育体制は充実しています。各事業において目標が達成されており、今後、拠点内での連携を通しての事業の活性化を期待します。
琉球大学	特色ある緩和ケアエキスパートナース養成コースにおける先進的な取り組みが伺えます。地域特有の希少がん疾患の研究成果は期待しております。今後、がん看護専門看護師養成のプログラムの充実とホームページ上での広報活動により、大学院コース、インテンシブコースへの受け入れを進めていただきたい。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

令和2年2月17日開催の「3年目中間評価会」での発表内容および配布資料、九州がんプロホームページ (<http://www.k-ganpro.com/>) 等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	眞嶋 朋子
-----------	-------

1. 3年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	a
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	a
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	a
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b
コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
<p>目標1 九州全域の距離の離れた大学間の連携がとれるように様々な仕組みを構築されていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州がんプロ研修会 を通じて、各大学持ち回りで、症例検討、課題検討、講演会を実施し、多くの参加者が得られているところは評価できる点だと思います。 e-learning を促進するために、支援室を設置され、効果的に教材を活用する方法を取られていることがうかがえます。 離島が多い地域における病診連携など、九州がんプロに特徴的な取り組みが紹介され、今後がん専門病院を超えて、幅広い地域、高齢者施設などにおけるがん医療の推進に参考になる取り組みが紹介されているのではないかと思います。 インテンシブコースについて次年度以降検討される内容については、より多職種が関与できるように計画を進めていただきたいと思います。 <p>特にゲノムについては座学だけでなく、医療機関でどのように患者を支援するのか、そのためのイニシアティブを医療機関でとるのか等、検討していただきたいと思います。</p> <p>目標2、3 ・医師に関する研修のほかに、専門看護師教育については、38単位の専門看護師教育課程の推進のために、専門看護師の教育を受ける方を推薦するなど、大学病院、がん専門病院の管理者の積極的な関与が必要と考えます。また、がんプロの取り組みを通じ、専門看護師がより、積極的に医師の診断過程に関与できるように議論を深めていただきたいと思います。</p> <p>目標3 ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することについて実施されていますが、さらに4、5年においては、先進事例と発信を促進していただきたいと思います。</p>	

2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	ゲノム、小児・AYA 希少がん、ライフステージに応じたがん医療 など3つの課題に対する、講演会、訪問研修、等を開催され、がんプロの課題を着実に推進されていることは評価できる点だと思います。特にゲノムに対する医療講習会の開催数、参加者数については、非常に素晴らしいと思います。ゲノムに関する多職種の成果を他の地域においても広げていただけたらと思います。
福岡大学	多職種が参加してインテンシブコースの講演会、かかりつけ医、在宅医と連携してがん診療に関する病診連携について実施されており、他大学の中でも病診連携の取り組みが充実していると思いました。多職種連携がん専門医療人養成コース（インテンシブ）の内容は他の大学においても参考になるのではないかと思います。次年度以降も継続いただきたいと思います。
久留米大学	小児・AYA・希少がんの取り組みについて充実した内容になっていると思います。外来診察質での診療の見学や治療の説明など、具体的内容をどのように伝えるかなどコミュニケーションスキルの修得も含まれており、評価できると思いました。これらの内容は、多職種との連携教育の中にも取り入れるとよいのではないかと思います。特に看護系の教員とのコラボレーションをさらに強化していただきたいと思いました。
佐賀大学	ゲノム、小児・AYA 希少がん、ライフステージに応じたがん医療 など3つの課題に対する取り組みが行われていることについては評価できます。がんプロ事業をがん治療に関わる多職種の横断的組織を構築されていることも優れた取り組みだと思います。今後も大学院生のリクルートを続けていただきたいと思います。
長崎大学	・離島やへき地医療をライフステージに応じたがん医療のなかで展開されていることが強みとして評価できます。この強みは今後、ゲノム医療の推進にも関連してくるのではないかと思います。緩和ケアのみならず、治療を目指すがん医療に関しても地域の中で、提供する必要性の有無など、提言していただきたいと思います
熊本大学	研修医—大学院—一体型がん専門医療養成コースを通じて専門医の資格取得を促進されたことについて優れた点として評価できます。また、がん専門薬剤師コースの中で、薬剤師のみならず多職種を対象にしたセミナーを実施し、参加人数が増加していることも、優れた点であると思います。がん専門薬剤師の養成についても、今後発展させていきたいともいます。
大分大学	インテンシブコースを通じて、ライフステージに応じた多職種教育を実施されていることは優れた点と評価できます。 多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コースでは充実した看護セミナーを実施されており、成果もあげられていると思います。セミナーの中に 医療同意能力のアセスメントという文言は不適切ですので、適切な表現に修正をしてください。
宮崎大学	がん専門看護師コースの発展を目標にされていることは優れた点であると思います。また地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）において、講義への参加者数および評価も高く、効果的な運営ができていると評価できます。専門看護師コース38単位についてはがん看護専門看護師コースを主として教育する教員の確保が課題となるのではないかと考えます。
鹿児島大学	3つのコースすべてについて、取り組んでこられていることは評価できます。特にゲノム医療の教育のみならず、医療施設内での運用方法についても検討され、教育に生かしていることは今後のさらなる発展が期待できます。
琉球大学	緩和ケアエキスパートナースコースでは目標人数を超え教育できていることは評価できます。専門看護師コースの養成者を増やすには、医療機関における受け入れ態勢の整備や、看護管理者の理解が必要であり、医療機関、大学院が一体化した体制で専門看護師の養成に取り組む必要があると思います。今後の発展を期待いたします。